

支部活動報告 6月～8月

萩原史郎先生の急逝により、急遽、本年の残りの定例研究会の講師は写真家の福田健太郎先生に、作品展選定の講師は昨年まで東京支部の定例研究会講師をされていた写真家の山口高志先生に快く引き受けていただいた。大変感謝している。

●第1回特別研究会



- ・日時:2023年7月2日(日) 13:00～17:00
- ・開催場所:京橋プラザ区民館1号洋室
- ・参加者:22人(講評20人)
- ・講師:辰野 清先生(JNP 指導会員)

★ 講評会13時～15時

作品提出は1人2点で、2点のうちから1点を選んでいただき金とした。

20人の講評が終わったところで、金賞の作品(2L)を机に並べ、優秀作品5点を選んでいただいた。講評は、それぞれの撮影状況の的確な把握と作品の構成ポイントの理解をもとに適切な指摘をしていただき、大変有益であった。

★講演「風景写真における内面性の操作」

15時頃～17時

・風景写真の表現には次の2つがある。

- ①写実的で、見たままの風景を撮る。
- ②抽象的で、作者の思いを風景から見出して一般化して見せる。

どちらが良いかは決められないが、辰野先生は後者②である。

・今回は、抽象的、客観的な作者の思いを風景の中から見出して、一般化して見せている例として29点の作品を紹介された。

写真には、撮った人の感情がどこかに含まれる。

●第3回定例研究会(例会)



- ・日時:2023年8月13日(日)12:30～17:00
- ・開催場所:京橋プラザ区民館1号洋室
- ・参加者18人(欠席1人はビデオ報告)+見学1人(参加者は盆最中でもありやや少ない)
- ・講師:福田健太郎先生(故萩原史郎先生の代行)

★講評会 12時30分～16時

参加者1人4点の作品を提出してもらい、講評および、4点の中から金と銀を選んでいただいた。

18人の講評が終わったところで、金賞の作品(2L)を机にならべ、優秀作品10点を選んでいただいた。福田先生は、撮影者の個性を大事にするという立場で、それぞれの画像を考察し、必要と考えられる場合は、Photoshop Camera Raw を用いて、トリミングやレタッチを実演していただき、大変分かりやすかった。

「今日のコメントがすべてではない。自分(撮影者)自身を信じてほしい。」とのことで、レタッチの要否、程度は本人の判断で選択すべきであるとのこと。今後、撮影者と質疑の時間を取ればさらに理解が深まると考えた。

★講演「自分を生かす、風景写真」 16時～17時
・四季折々、一期一会の出会いの中で、自分の心に触れた思いを届けたい。ピピット琴線に触れるもの、感じ方も人それぞれで異なる。自分のまなざしを届けられないかと思って活動している。

○自分の感性を大切にしてほしい。

○風景をじっくり見る。自分の心に従う。

○自分を生かす(得意・好き・心地よい・なんとなく)不得意克服より、得意を伸ばす。

○自分らしさを引き出すための要素:

・レンズの選択によりボケとシャープの表現

・具象・抽象・風景との距離、・色調&トーン(彩り鮮やか、落ち着いた色、濃い淡い、硬調軟調、明るい暗い)、・被写体(花・水・-----山・里)、

・縦構図、横構図、画面比率(2:3にこだわらない。)

・性格、これまでの経験、アプローチの方法(下調べ、地形 etc.)

○自分が注意していること

・私たちと同じ、生きている自然、風景と向き合っていることを忘れない。

・謙虚さを持ちながら、自信を持ち継続すること

・一期一会の出会いを大切に。頭の中のイメージに固執しない。

・他人と比較せず、自分を貫く。進む勇気を持つ。十人十色。

・技術に溺れず、技術を磨く、徹底して基本の繰り返し、引き出しを増やす。

・観察と洞察の繰り返し、物事の本質に迫りたい。

など先生の写真に向かう姿勢を紹介された。

○各地域の写真の紹介、及び、個展「泉の森」(水の巡りによる豊かな自然)、「生成流転」、「春恋し桜巡る旅～」から多数の作品を紹介いただいた。

静かな心に染み入る作品、明るいハイキーな作品、生活感のある作品、森の中で見つけた動物などの作品等、足元(枯れ葉と蝸牛の殻など)から遠くまで広く見ながらの、様々な作品群であった。

我々も自然を深く見つめて作品を作って行きたいと思った。

★第21回東京支部作品展進行状況

作品展担当の佐藤直芳さんの尽力で、募集

(6月2日期限)、8月4日選定会議、

8月12日プリント指示(A4版)と順調に進んでいる。

参加者 23 人。

(文責 井上武夫)

受賞作品によせて

この度 藤野さんが JPS 展(日本写真家協会公募展)で入賞されました。5枚の組み写真でタイトルは「祈り」です。過去にも「祈り」のテーマで入賞されていたらしいです。

写真撮影に思うこと

JPS展受賞について書いてほしいという事ですが、スナップ作品ですので、風景写真を主とするJNPには、マッチしていないかとも思いますが、私なりに思う事を書いてみました。

●「祈り」(2023 JPS銀賞)

ネパール南部のチャット・パルバという感謝祭の情景です。年に1度、太陽に対して、収穫や家族の健康などを感謝します。この辺りの町々には、どこでも池があり、夕方、池に入り、祈りを捧げます。中には、30分程も祈り続ける人もいます。夜は、池の周りに家族ごとに場所取りをして食事などを楽しまします。

こうした自然に対する人々の祈り、感謝の気持ちを表現したいと思いました。中央に祈りを捧げる線香を持つ女性を配し、その両側に池の情景を徐々に遠ざかる様に配して、遠近感、臨場感も表現しました。

●「暮らしの中の祈り」(2018 JPS金賞)

ミャンマーの首都ヤンゴンの環状線の電車の中での事です。席に座っていた僧侶の前で、老女が僧侶に手を合わせた所です。仏教国ミャンマーでは、珍しい事ではないのですが、老女の畏敬の念を表現したいと思いました。電車の窓からの光線が通路のほぼ中央に来てくれて遠近感を表し、太陽の高さ、電車の進行方向も最適の条件になってくれました。

●「神々の形」(風景写真誌2020 5、6月号)

私の永遠の目標である、日本人の自然や神に対する畏敬の念を撮影、表現したいと思った組写真の一例です。小さな祠の横の風にそよぐ桜、緑の草々の中の名もなき墓石、墓地を覆う真っ赤な紅葉、神に捧げられた松明の炎。それらが、私には日本人の自然や神に対する畏敬の念の象徴に思われました。

私が写真撮影の度に常に考慮する事は、「美しい」、「綺麗」だけでないものを撮影したいという事です。その背後にある「余韻」、見た人が何かを「感じ」てくれる写真を撮影したいと思っています。風景でもスナップでも同じです。皆様も同じだと思いますが、撮影する前は、まずどういう作品を撮るのかをイメージすると思います。その時に、自分の考えている「余韻」、「感じ」をどういう風に画面の中に取り入れるかを常に考える様にしています。

私の永遠のテーマは、人々の自然や神に対する崇敬、畏敬です。特に、日本人は古来、山、岩、森、樹、川などの自然を神の依り代と考えて、尊崇、畏敬の念をもっていると思います。こうした尊崇、畏敬の思いをなんとか作品の中に表現出来たら、と思っています。それが「余韻」や「感じ」に繋がると思います。思う様に撮れない事が普通ですけども…

(文責 藤野治雄)

写友広場

2023年6から8月の間には以下の方が入賞入選されました。

■第1回関東5支部交流撮影会 1席

鑑賞する人々 長澤俊美

■JNP 四季のいろ 入選

瞬光 佐々木 節子

(文責 戸張伸子)

事務局より

●今後の予定

★第2回特別研究会 10月22日(日)

講師:飯島勝先生

プロフィール:1956年生まれ、千葉県在住、19

56年第4回前田真三賞を受賞、1989年~2

021年写真クラブ「フォート・樹」所属

講演「飯島勝の世界」(「何処へ」より)

★第4回定例研究会 12月10日(日)、23日(土)

または24日(日)

講師:福田健太郎先生

★JNP 本部 秋の大影会 志賀高原

10月17日(火)~19日(木)

★東京支部秋の撮影会 月山(志津温泉近辺)

10月29日(日)~31日(火)

★第21回東京支部作品展

11月3日(金)~9日(木)

富士フォトギャラリー銀座 スペースー1

プリントチェック 9月6日(水) 山口高志先生

(文責 井上武夫)

編集後記

暦の上では秋ですが、まだまだ残暑が続いています。暑い! 熱い! 猛暑の長い夏 皆様はいかがお過ごしでしたか?

あまりの暑さに電気代を気にしつつも健康にはかえられないとエアコンの中にもこもり、読もうと思っていた本を読んだり、コンテスト応募のため今まで撮った写真を見直してみたり、結構良い時間が過ごせたのかなと思います。

大雨や台風で被害のでた地域の皆様にはお見舞い申し上げます。

「70歳が老化の分かれ道」和田秀樹著 は ベストセラーですので読まれた方も多いと思いますが、この夏読み返しました。

和田秀樹さんは高齢者医療に携わってきたお医者さんです。

印象に残った言葉をいくつかあげてみます。

- ・70代の10年間は人生最後の活動期であり、70代で身につける習慣がその後の人生を救う。
- ・気持ちが若くいろいろなことを続けている人は長い間若くいられる。
- ・栄養状態のよしあしが、健康長寿でいられるかどうかを決める。

いろいろ書かれている中で 仕事でも趣味でも続けていくことの大切さが書かれています。

高齢者にとっては脳機能、運動機能を維持するためには使い続けることが重要とのこと。

エンゼルスの大谷くんも 上達するための秘訣を聞かれて「好きなことを見つけてあきらめずに続けること」と答えています。福田健太郎先生も先日の講演の中で続けることが大切と言ってらっしゃいます。好きなことを飽きずに長く続けていくためには努力も必要です。

まさに「継続は力なり」というわけです。

隔月間 風景写真の3,4月号で80代で活躍されているアマチュア写真家の桜の特集が組まれました。東京支部にも80代で活躍されている会員の方が何人もいらっしゃいます。

年齢を重ねることにより衰えていく機能もあると思いますが、いろいろな経験を重ねて感性はますます磨かれ、若い頃より深く自然や物事を見つめられるようになるのではないのでしょうか？素晴らしい作品を見せていただくたびにそう思います。

風景写真は素晴らしい世界ですが、写真の被写体には風景だけでなく人物やお祭りのスナップ、花、鉄道などいろいろあります。皆様も風景の他に、いろいろな写真を撮って楽しんでいらっしゃると思います。

藤野さんのようにご自分のテーマに向かって、風景写真だけでなくスナップも撮り続けていらっしゃるのには本当に素晴らしいなと思います。

私も 心に触れてくる風景と花を撮り続けていきたいと思っています。

夏ごもり？で、秋の撮影シーズンに向けてウォーミングアップの必要な我が家ですが、いつにもまして紅葉の季節が楽しみです。素晴らしい作品作りを目指して今年の秋を楽しみましょう！

(文責 戸張伸子)